

2018年12月16日

## 福音書からのメッセージ

そこで群衆は、「では、わたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。

(ルカによる福音書3章10節)

洗礼者ヨハネは洗礼を受けに来た人々に対し、「悔い改めにふさわしい実を結べ」と語ります。洗礼者ヨハネは厳しく裁く人で、イエス様は優しい救い主という印象を持つことがあります。しかし洗礼者ヨハネは自分に降った「神の言葉」によって人々に語っていることをわすれてはなりません。つまりこの「悔い改めにふさわしい実を結べ」という言葉は、神さまの思いなのです。

ヨハネは洗礼を受けさせて欲しいと自分の元に来た人々に対して、このように言います。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ」。彼らは今の罪からただ逃れるために、洗礼を受けようとしていました。しかし悔い改めの実を結ぶことなく洗礼を受けたところで、神さまの怒りを逃れることなどできないと、ヨハネは言うのです。そこで彼らは聞きます。「わたしたちはどうすればよいのですか」と。

彼らに対してヨハネが返した答えはこうでした。群衆には、下着を二枚もっていたら持っていない人と一枚ずつ分け合いなさい。食べ物も同じようにしなさいと言います。あり余った中から誰かに施すのではなく、となりの人と同じ分だけ分け合いなさいということです。徴税人や兵士に言った言葉には、自分の与えられたもので満足しなさい、他人の物をむさぼるなど言いません。一見するとこれらの命令は、そんなに難しくはないと感じるかもしれません。でも果たしてそうでしょうか。わたしたちにはよく言えば向上心、悪く言えば貪欲など



ころがあります。人より多くの果実を得ようと、やっきになってしまうのです。また、一度手にしたものは、

自分のものだとして握りしめてしまう。あり余っているときならばいざ知らず、自分の手の中にあるものを他の人と分かち合うことなど、なかなかできない。それがわたしたちの現実ではないでしょうか。

しかしここでもう一度、悔い改めという言葉に戻ってみたいと思います。悔い改めとは、自分のことばかり考えている状態からグルンと方向を変え、神さまに向き直すことです。なぜ神さまの方に向きを変える必要があるのでしょうか。それは、そうするしかないからです。わたしたちはいくらがんばっても、神さまが喜ばれる人になれない自分を知っています。だから向きを変えるのです。自分の今の姿を見て、自分の罪を認め、神さまの赦しがなければどうしようもないその現実気づく。だから、神さま何とかしてくださいと、神さまの方を向く。それが悔い改めなのです。

クリスマスを前にして、自分と向き合いましょう。今、わたしたちには何が必要なのでしょうか。神さまはそのようなわたしたちに、大きなプレゼントを与えてくださいます。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>